



発行日：平成 26 年 7 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 18 回川部会WGを開催しました！

第 18 回川部会WGでは、今年度 1 回目の本川モデルの検討を行いました。現地調査と意見交換の 2 部構成で、白浜工区、加茂川合流点段差、渡合対岸地区について話し合いました。

日時：平成 26 年 6 月 27 日（金）13:00～17:00

会議場所：豊田市職員会館 2F 第 1 会議室

参加者：23 名（事務局含む）



◆主な意見交換内容

1. 意見交換

■市民企画会議からの報告及び提案について

- 都市の河畔林について、河川協力団体に位置付けた矢作川森林塾のこれまでの活動内容、今後の活動の方向性について報告いただいた。また、白浜工区を対象にした研究の方向性について、鷺見先生より報告いただいた。
- 加茂川の段差改善について、今ある土砂を活用して、木材を使った魚道設置の提案があった。河川管理上の横断施設でもあることから、河川管理者でも設置の可否、方法について検討し、関係者間で調整を図ることとする。
- 渡合対岸地区について、どういう方向性で検討するか、矢作川漁協と調整する必要がある。
- 次回本川モデルWGでは、アユ釣りのメッカである豊田大橋～久澄橋の瀬・淵を現地調査する。可能であれば、矢作川漁協に出席してもらう。

2. 現地調査

矢作川本川の白浜工区、渡合対岸地区、加茂川合流点段差について、昨年度からの変化状況や活動効果、現状の課題等を確認しました。



白浜工区



渡合対岸地区



加茂川合流点段差

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 真柄

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(1) 白浜工区

■鷺見先生より今後の研究の方向性に説明いただいた。

- 白浜工区の自噴池について、0.3L/分、20L/日程度の湧出量を確認した。湧水の出所はまだわかっていない。
- 地形測量を行っており、洪水規模によって変化する地形状況を把握していく予定である。表層の地形と玉石地形（地盤の固い層）の横断状況を把握している。表層の砂部分は動きやすい層になる。（鷺見）

■矢作川森林塾の碓氏より、都市の河畔林での矢作川森林塾の活動について、報告をいただいた。

- 都市林をつくっていききたい。明治用水の神社の林のようなイメージである。実生のナツツバキやオニグルミの林などがあり、自然に生えてくる木を大きくしていこうと考えている。（碓）
- 白浜工区の整備は、まだ整備過程であると考えており、久澄橋下流について玉石の多いアユ釣りの環境としていい場所にしていききたい。（碓）
- 加茂川水門下流は、子ども達が遊べる場所にしたい。（碓）
- 一つ問題があって、活動団体では人力で実施するのが精いっぱいであり、河床の掘削など重機が必要なところを誰がやるかという話がある。（碓）
- 矢作川森林塾をアドプト制度から一歩進めて、河川協力団体に位置付けた。機材、実費程度の提供はできればよいと考えている。（事務局）
- より多くの人にきてもらいたいという視点から考える必要がある。魚の個体数や魚種が減ってきているか、また、河川利用者が減ってきているかなどの記録はあるか？（光岡）
 - ▶ 鳥や魚、昆虫などこれから調査していく予定で、豊田東高校の学生と一緒にまずは図鑑を作りたいと考えている。（碓）
 - ▶ 毎年、親子釣り教室をやっているのので、データをもらえるかもしれない。（事務局）
- 都市林が形になるまでに、5年～10年かかると思うので、その成果を全国発信できるようになればよい。（碓）



(2) 加茂川の段差改善について

- 加茂川の段差改善については、とにかくやってみて、ダメなところはトライ＆エラーで改善していこうと考えている。（碓）
- なるべく左岸側に魚道を寄せて、右岸側は今ある土砂をならして、子どもが寄りつける場所にしたい。（中田）
- 魚道を木材で作ったときの水密性が心配で、遮水シートを設置することも考えられる。（鷺見）
 - ▶ 木材の隙間は、目詰まりしてくるのではないかと期待している。（中田）
- 魚道設置は、どういう魚を対象にしているか。（光岡）
 - ▶ 河川愛護会等の活動団体があり、加茂川の上流域にも魚が供給できるようにしたいという思いはある。（碓）
- 普段のときは、矢作川本川とどのくらいのつながりがあるか。出水の時に、見るチャンスがあるとよい。
- 加茂川水門は、どういう状況で閉めるか。
 - ▶ 去年の18号台風時には、水門を閉める手前くらいであった。
 - ▶ 本川の魚が避難に入ってくるのではないかと。（小澤）
- 見えるところに魚道があることで、子どもたちが関心を持つきっかけにもなる。（碓）
- 木材の流失が問題となる可能性があり、ワイヤーのアンカーを付けてはどうか。（鷺見）
- 平常時に本川とつながっている支川とそうでない支川では、魚の個体数が違う。（光岡）
- 魚道は河川管理上の横断施設でもあることから、事務局でも設置の可否、方法について検討する。（事務局）



(3) 渡合対岸地区について

- 矢作川漁業協同組合といっしょに検討するきっかけになり得るので、モデルとして検討してはどうか。（近藤）
- アユの産卵床ともなる場所である。
- 低水路線形が、そのまま蛇行してしまっている。（鷺見）
- 元々、縮流対策と矢作川漁協の産卵床の考え方を考慮して、瀬替えをしている場所である。（事務局）
- 普段の機能をどうするかという話もあり、議論を仕分けて考えた方がよい。（鷺見）
- 今後、どういう方向性で検討するかについては、矢作川漁協と調整できると良い。

(4) 振り返り

よかったと思うこと：意見の違いが明らかになった。/矢作川のことについての対策や考えなどのことがわかって勉強になった。/官民一体でやりたい事を話し合うのは、良い事だと思った。/今後、改良する時に話し合っ、より良い方向が出ると思った。/白浜工区は、しっかりとこれから調査して推移を見れるのうれしい。

よくなかったと思うこと：どの現場でも、もう少しゆっくり全体を観察して、それから説明を聞くのもよいか、と思います。
本川モデルの取り組み・アイデアなど：漁協を引き戻すという、本守さんの意見に賛成する。/矢作川は、自然を多く保ち、きれいなあゆの住める川であった方が良くと思いました。

今後の川部会 WG の予定



■第19回（地先モデル）

日時：平成26年7月11日（金）13:00～18:00
場所：矢作古川分派施設、岡崎市ホタル学校の現状確認
内容：現地確認

■第20回（本川モデル）

日時：平成26年8月25日（月）（予定）
場所：豊田大橋～久住橋の瀬・淵の現地調査、検討
内容：現地確認＋会議

